

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-5 居住環境づくり
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	下水道推進課長 稲田 栄	電話番号	0852-22-5932
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	流域下水道運転管理事業		
目的	(1) 対象	流域下水道東部処理区及び西部処理区利用者	
	(2) 意図	流域下水道を正常に運転し、下水道利用者に快適な生活を提供する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 央道湖東部浄化センター及び西部浄化センターへの流入汚水を浄化し放流を行う。</li> <li>・ 浄化センターを適切に運営するため施設・設備の保守・点検を行う。</li> </ul>		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年間流入水量	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	処理を要する汚水等の年間流入量	目標値		27,565	27,937	
			実績値	27,577	26,787	28,357	28,161		
			達成率		97.20	101.50	99.60		%
指標名	式・定義	年間流入水量	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,599,314	1,787,679
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・ 平成26年度の年間流入量は、東部19,265千m3/年、西部8,896千m3/年であった。
- ・ 浄化センターの適切かつ効率的な運転、維持管理によって下水道利用者の快適な生活環境を提供できた。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

概ね目標を達成し、放流水質も基準値内であり、運転管理も良好に行われた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

年間流入量は概ね目標値に近い値となったが、昨年度よりも減少している。

②困っている状況が発生している「原因」

・ 年間流入量は、流域関連公共下水道の面整備の状況、接続率の状況、節水型社会および不明水の影響を受ける。

③原因を解消するための「課題」

年間流入量を増加させるには、流域関連公共下水道面整備後の接続率向上が重要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

流域関連市の接続率向上に向け、県が普及啓発活動で行っている出前講座等を引き続き行うことが必要である。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）